法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-05-11

20世紀前半のシベリア・ロシア極東における植民都市と地図作製

米家, 志乃布 / KOMEIE, Shinobu

(出版者 / Publisher)
法政大学文学部
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
Bulletin of Faculty of Letters, Hosei University / 法政大学文学部紀要
(巻 / Volume)
62
(開始ページ / Start Page)
57
(終了ページ / End Page)
71
(発行年 / Year)
2011-03
(URL)
https://doi.org/10.15002/00007584

Hosei University Repository

20世紀前半のシベリア・ロシア極東における植民都市と地図作製

米家　志乃布

Ⅰ．はじめに

本稿では，モスクワ・サンクトペテルブルク・イルクーツク・ハバロフスク・ウラジオストク・ブラゴベシチェンスクの図書館・文書館等での地図史料所在調査をもとに，シベリア・ロシア極東における植民都市の建設状況，各都市を対象とした都市地図を概観し，シベリア・ロシア極東における20世紀前半の近代都市図（出版地図）の特徴について考察することを目的とする。

ロシア地図史における大縮尺の地域図についての研究は，ポスニコフ（А.В.Постников）によるものが重要である[1]。また，19世紀までの軍（参謀本部）による大縮尺の地図作製に関しては，グルシュコフ（В.В.Глушков）による研究に学ぶ点が多い[2]。これらの研究は，ロシアの大縮尺地図の作製史を学ぶうえでは必須の研究である。しかし，いずれも参謀本部や帝立ロシア地理学協会などの中央の軍および学術機関による地図作製が主であり，各地で作製されたローカルな出版地図までは論じておらず，それらの作製・残存状況について概観する研究史上の意義はあると思われる。

また，地図作製そのものの研究ではなく，19世紀までのシベリアの都市形成を論じるうえで，都市図を史料として用いているものにグリャニツィコヴァ（Н.Ф.Гуляницкого）編の「ロシアの都市建設の芸術」シリーズのサンクトペテルブルク編が挙げられる[3]。ここでは首都のサンクトペテルブルクだけでなく，新しく建設されたロシアの植民都市として，シベリアのいくつかの都市とその都市図が挙げられている。

このように，各地域の都市図は，それぞれの都市計画や都市建設史にかかわる研究において史料として用いられていることが多い[4]。この点で，本稿にかかわる先行研究としては，ロシアの各都市で発行されている都市史研究および建築史関係の論文や著作が膨大に存在する[5]。

一方，日本における本稿の先行研究としては，佐藤洋一の研究が重要である。佐藤の博士論文では，ウラジオストクの都市空間形成の詳細な分析が行われている[6]。また佐藤は，ウラジオストクの都市形成史を明らかにするための重要な史料として近代都市図を利用しており，博士論文の巻末にはウラジオストクの市街地図リストを掲載している[7]。ウラジオストクは，日本軍がシベリアから撤退した1920年代初頭まで，多くの日本人が居住しており，日本人によって作製された地図も多い。佐藤のリストには，日本で入手できる日本人によって作製されたウラジオストクの近代都市図はほぼ網羅されているため，ここでは省略した。また佐藤は，モスクワでの調査は行っていないので，その調査結果を主に掲載する。

またアトラス類としては，日本では，主にベルリンの国立図書館に所蔵されている近代ロシアの都市図を集めたものが出版されている[8]。しかし，モスクワ・サンクトペテルブルクが中心であり，シベリア・極東の都市についてはごくわずかの都市図が掲載されているのみである[9]。それゆえ，どのような近代都市図が存在したのか，存在そのものさえ未解明な点が多いのが現状である。そこで，論文の最後に，シベリア・極東の主要都市を対象とした近代都市図（出版地図）の目録も掲載することとした。

Hosei University Repository

Ⅱ．シベリア・ロシア極東における植民都市の形成と発展

ロシアのシベリア進出が始まったのは16世紀からである。以下，シベリア・極東の主な植民都市の建設年次を確認してみよう。

16世紀はシベリアのロシア支配の拠点であるトボリスク（1587年），その前年にチュメニ（1586年），その他，西シベリアに位置するチュラ川流域およびオビ川流域の各都市が建設された。

17世紀では，オビ川上流のトムスク（1604年），クズネツク（1618年），エニセイ川流域にはエニセイスク（1610年），クラスノヤルスク（1628年），エニセイ川の支流であるアンガラ川にはイルクーツク（1652年），レナ川にはヤクーツク（1632年）が建設された。また，ロシアのカムチャッカ地方への拠点としてオホーツク（1647年），アナディリ（1648年）なども挙げられる。

18世紀になると，後のステップ総督府が置かれるオムスク（1716年），ペトロパヴロフスクカムチャツキー（1740年），コルサコフ（1790年クシュンコタン，1875年コルサコフ，1905年大泊）など，カムチャッカ半島やサハリン島に拠点建設が移り，シベリア地域は一段落した。

しかし19世紀になると，アムール川流域にニコラエフスク・ナ・アムーレ（1850年），ブラゴベシチェンスク（1856年），ハバロフスク（1858年）が次々と建設され，ウラジオストク（1860年），ユジノサハリンスク（1881年ウラジミロフカ，1905年豊原），現在は中国東北部になるハルビン（1898年），ダーリニー（1898年），ポートアルトゥール（1898年）とロシアの極東地域に一気に植民都市の建設が行われる。その後，政治的な状況を反映し，20世紀には，ユダヤ自治州の州都であるビロビジャン（1934年），流刑地としてマガダン（1939年）が建設された。

以上のように，シベリアの主なロシア進出拠点は，16世紀末～17世紀にかけて建設されている。また，ロシア極東のアムール川流域の諸都市はシベリアの諸都市に比べて遅い年代での建設であることに留意する必要があろう。ブラゴベシチェンスクは1856年にコサックの拠点ができていたものの町の建設はハバロフスクと同じ1858年であり，この両都市の建設は，この年の愛琿条約により，ロシアがアムール川左岸を獲得したからであった。1860年にはロシアと清の間で北京条約が結ばれ，清はウスリー川東岸をロシアへ割譲し，ロシアはそこに「東を征服せよ」という意味のウラジオストクを築くことになった。

これらの諸都市は，ロシアのシベリア進出によって形成された植民都市のなかでは，隣国である清（中国）との長年にわたる領土争い，19世紀後半の国際条約によるその領土画定を契機に形成された都市という意味で，多くのシベリア諸都市と歴史的意義が異なる。ロシアはこれらの諸都市を拠点として，中国東北部への進出を行い，日本との覇権争いを行うことになった。1904年の日露戦争の敗北で中国東北部からは撤退することになったものの，ハルピン，ダーリニーといったロシアが中国東北部に建設した都市はそのまま日本の植民地時代に受け継がれた。

本稿が対象とする20世紀前半は，シベリアではすでに多くの都市が3世紀以上を経過している一方で，極東ではまだ50年程度しか経過しておらず，都市の中心部における地割や居住区域の設定もまだ計画途中である場合が多かった。その違いも近代都市図を分析する際に留意しなければならない点のひとつである。

なお，シベリアのなかでもっとも新しくできた都市のひとつであるノボシビルスク（1903年～1926年ノボニコラエフスク）は，1893年にオビ川への架橋の工事拠点として造られた集落がもととなっており，他のシベリア都市とはその建設の由来における性質は異なる。しかし，100年余で大きな発展をとげ，現在はシベリア最大の都市である。

Ⅲ．シベリア・ロシア極東の近代都市図の所在調査

筆者が2008年2月～2010年9月までに近代都

Hosei University Repository

市図の所蔵調査を行ったロシアの主な資料保存機関は，モスクワのロシア国立図書館（РГБ），ロシア国立軍事史文書館（РГВИА），サンクトペテルブルクのロシア国立図書館（РНБ），イルクーツク国立大学学術図書館（НБ ИГУ），ハバロフスクの極東国立学術図書館（ДВГНБ），ウラジオストクのロシア国立極東歴史文書館（РГИА ДВ），ウラジオストク要塞博物館，アルセニエフ郷土博物館，ブラゴベシチェンスクのアムール州立学術図書館（АОНБ）である。

図書館における都市図の所蔵としては，モスクワのロシア国立図書館（РГБ）地図室が最も充実しており，ロシア各地の地図が地域別に分類されて最近のものまで各種揃っていることが特徴である。そこで，1900年代前半にシベリア・極東で出版された地図を地図室内の目録で検索して閲覧し，必要なものは撮影した。

サンクトペテルブルクのロシア国立図書館（РНБ）の地図室においても地図を閲覧したものの，撮影は許可されなかった。しかし，2009年よりHP上で画像が閲覧可能になったため，日本に居ても地図の画像は参照できる。

イルクーツク国立大学学術図書館（НБ ИГУ）には，多くのイルクーツクの都市図が所蔵されていることが確認できた[10]。しかし，地図の撮影は禁止されており閲覧のみであった。モスクワのロシア国立図書館やサンクトペテルブルクのロシア国立図書館にも同様に所蔵が確認できる地図もいくつか存在した。

ハバロフスクの極東国立学術図書館（ДВГНБ）とアムール州学術図書館（АОНБ）には20世紀前半の出版地図は残っておらず，1950年以後の比較的新しいものしか閲覧できなかったため，今回の目録からは除外した。また，ウラジオストクの博物館では地図の展示はあったものの，その他の地図は確認できなかった。

文書館では，モスクワの軍事史文書館（РГВИА）に参謀本部作製の多くの地図が所蔵されていることが確認できた。今回は上記の図書館で閲覧した地図との比較に適した地図のみ閲覧した。

ウラジオストクにあるロシア国立極東歴史文書館（РГИА ДВ）は，ウラジオストクの都市史に関する目録[11]を発行しており，1871年～1922年までのウラジオストクの都市行政の史料をその目録がカバーしている。その13頁に都市図の項目があり，そこに掲載されているものを閲覧した。目録には縮尺が書いていないので必ずしも大縮尺の都市図とは限らない。掲載されているものはすべて閲覧しておく必要があった。目録に掲載されている都市図を実際にみてみると，都市図としてある程度整っている地図は4点存在した。目録には都市図として単独で番号が記載されているものの，No.1～No.4の都市地図は，いずれも実は単独のものではなくドキュメント類の附属資料である。

以上，現段階で直接に所在調査を行ったロシアの資料保存機関である。将来は，モスクワの国立図書館など大規模な地図コレクションを所蔵する図書館において電子図書館が整備され，日本に居ながらにして各地図の画像を確認できるようになることが期待される。しかし，現段階では直接に訪問し閲覧することが最も確実な方法である。

Ⅳ．シベリア・ロシア極東における地図作製の特徴

1．各都市を描いた都市図の特徴（表参照）

(1) ウラジオストク

No.1の「ウラジオストク都市図」は，1904年に沿海州統計局が作成したウラジオストクにおける衛生医療統計に関する文書の附属地図である。利用されている出版地図は，書籍商が発行した都市図（1898年発行）とある。縮尺は5,400分の1であり，ウラジオストク市街地を詳細にみることのできる大縮尺の地図である。

No.2は，沿海州統計局が作成した1910年5月5日～1910年9月28日までの都市内部において建設している人々の情報をリストアップした文書に附属した地図である。この図は，ウラジオストク市参事会による1909年の出版地図である。縮尺は1インチ＝250サージェン[12]（縮尺21,000分の1）

Hosei University Repository

とある。凡例，施設名，街路名の索引付きであり，カラー図版である。凡例に挙げられているのは，建設街区（赤色），一部建設街区（赤色）と未整備街区（緑色），計画街区（緑色），軍管轄区域（黄色），Ⅰ～Ⅴの都市内部の境界線である。No.3は白黒であるが同じ出版地図である。この1909年にウラジオストク市参事会が出版した都市図はアルセニエフ郷土博物館の展示や佐藤洋一の論文でも紹介されている[13]。

No.4も同じく市参事会の統計局が出版した地図であるが，1インチ＝100サージェン（縮尺8,400分の1）とあり，No.2やNo.3に比べて大縮尺ではあるが，モノクロで凡例はなく，街区に細かく番号が書き込まれてローマ数字で街区上に境界線が引かれている。

No.5の地図は，タイトルに「1915年に建設実現している鉄道と港湾施設を示したウラジオストクの都市図」とあり，ウラジオストク市のエンブレムの貼ってある黒の装丁，絹本に出版地図が貼り付けてある。市街地と道路は記載されているものの，街区番号や街路名などの記載はなく，索引もない。右下の地図の欄外に手書きでЯнварь 1916 г. Правление О-ва Кит.Вос.ж.д.と書き込まれており，東清鉄道会社による出版地図であると思われる。等高線が詳細に書き込まれ，市街地および港湾の地形が把握できる地図である。

No.6は，ウラジオストク市公益事業部が1929年に発行した地図である。「ウラジオストクの居住地区および計画区域の配置地図」とあり，縮尺は15,000分の1，モノクロの印刷図である。この都市図は，街区番号と街路名が示されており，施設名や街路名の詳細な索引もある。No.8とNo.10も類似の地図である。

一方，No.7は他の都市図とは異なる形式である。タイトルは「ウラジオストク都市図」，出版はТрансрекламаとなっている。都市図の部分には，凡例として，建設街区（赤色），一部建設街区と未整備街区（ピンク色），計画街区（黄色）が示されており，以前の地図のような軍管轄区域は描かれていない。周囲には企業名や店名などの広告が示されている。

No.11とNo.12は，ウラジオストク市街地中心部分の測量図であり，1900年代初期のものであると目録に書かれている。作製者は明記されていない。しかし，明らかに参謀本部作製の測量地図である。縮尺は1008分の1と840分の1である。

(2) ハバロフスク

No.1の1911年発行の「ハバロフスク都市図」は，縮尺が1インチ＝250サージェン（縮尺21,000分の1）とあり，右下にウラジオストクと書いてあるので，ウラジオストクで発行されたと思われる。凡例は，建設街区（赤色），計画街区（赤い囲みの白色），官公庁の建物（黒長方形に番号付），店舗と倉庫（黒点に番号付），沼地や湖，谷などの自然物や人工物（施設や街路名）の凡例が詳細に示されている。単なる建設街区か計画街区の区別だけでなく，都市内部の様々な施設などが示されていることから，現代の都市地図に近い形式となっているともいえる。これとまったく同じ地図がサンクトペテルブルクのロシア国立図書館（РНБ）にも所蔵されている（ハバロフスクNo.5）ことから，ハバロフスクを描いた出版地図として広く普及していたことも想定できる。

No.2のタイトルは「ハバロフスクの居住地区および計画区域の配置地図」とあり，1924年の印刷地図である。縮尺は8,400分の1である。凡例は，建設街区（黄色），計画街区（薄緑色），軍管轄地域（薄赤色）や都市内部の施設も番号で示している。市街地を見ると，街区のなかに土地割が描かれ番号が付されていることがわかる。都市地図としては非常に詳細な地図である。

No.4の地図は，ウラジオストクのNo.7の地図に形式が類似している。中心部に市街地が描かれ，周辺には企業名や店名など多くの広告が掲載されている。市街地の状況を見ると，No.2の地図の図像に似ており，1920年代の編集・出版であると思われる。

No.6は，ハバロフスク郊外のアムール川河畔の測量図である。都市図ではないがВТОГШ（参謀

Hosei University Repository

本部軍事地形測量部。以下，参謀本部で統一する。）作製地図の特徴を見るうえで表に掲載した。測量を担当した軍の担当者名が地図のタイトル下に書き込まれている。凡例のない一般図であり，特に丘陵地の全体に詳細に小刻みで等高線が書き込まれ，地形の特徴を読み取ることができる。地図の欄外にはСекретно（秘密）と書き込まれている。

(3) ブラゴベシチェンスク

No.1とNo.4は図面左下に「ブラゴベシチェンスク都市図」のタイトル，その上にアムール州の紋章が描かれている。描かれている市街地を見ると，街区のなかに土地割と番号が付され，街区にも通し番号がある。これは1910年，ブラゴベシチェンスク市参事会の出版地図である。行政区画がⅠ～Ⅳに区分されており，色分けされている。都市内部の主要施設も番号で示されている。現在の都市地図と比べても，市街地の輪郭や寸法がかなり正確に描かれていることがわかる。

No.2は1869年のブラゴベシチェンスクの手書き地図である。簡単な都市計画が描かれているのみである。凡例はない。No.3は1890年代の地図と推定される。いずれも16,800分の1である。当該期における市街地の概要と都市内部の施設が番号で示されている。

No.5も1915年作製の市参事会による出版地図である。No.4とNo.5の都市地図は，凡例も市街地の描き方もほとんど同じであるが，1913年にシベリア鉄道とつながったことにより，No.5はNo.1・No.4に比べると，駅周辺の北方部分の土地計画が描き込まれているところに違いがある。

No.6は1925年出版，10,000分の1の多色刷の都市図であり，市街地の地図の周辺に企業名や店名が書かれている。市街地部分を見ると，No.5の地図に比べて，鉄道駅の南側の区画において居住区域が広がっていることと北側に都市計画が広がっていることがわかる。街区のなかに土地割と番号が示されていることは上記の地図と同じである。凡例は行政区画が3つに色分けされており，そのほかは庭（緑色），新しい街区（白），墓地（十字マーク），教会，石造りの建物などであり，凡例は前述の都市図に比べて簡素になった。出版はОбщество Друзей Детейの極東アムール県支部とある。

No.7は，1932年の「ブラゴベシチェンスク都市図」である。縮尺は10,000分の1，出版元は不明である。地図の図像はNo.6と同じである。周囲に広告はない。市街地の区画の色分けはされておらず，凡例は，レンガ造りの建物（赤色），庭や公園（緑色），墓地（緑色に十字マーク）程度しかなく，No.6よりもさらに簡素である。

(4) イルクーツク

イルクーツクの場合，上記3都市と比べて早くから都市建設が行われており，20世紀前半においてはかなりの都市的発展が見られたと考えられる。出版地図も18世紀前半（No.1）から存在し，19世紀にもいくつかの出版地図が存在する（No.2～No.4）。また19世紀後半には参謀本部による大縮尺の測量図が整備されていたことも確認できる[14]。

No.7～No.9の地図は，1903年にイルクーツク市参事会が発行した出版地図である。No.7とNo.9の縮尺が若干異なるものの，内容は同一の地図であり，イルクーツク国立大学学術図書館（НБ ИГУ），サンクトペテルブルクのロシア国立図書館（РНБ），モスクワのロシア国立図書館（РГБ）の3か所に所蔵が確認できたことから考えると，都市運営において重要な出版地図であったことが予想できる。描いている範囲は，市街地中心部および東部に拡大している建設街区，アンガラ川を挟んだ西部と北部である。地図の内容は，凡例，施設名の詳細な索引がついていることが特徴である。凡例を見ると，街区（白色），建設街区（破線），石造建築街区と議会（赤色），緑地街区（橙色）など市街地の概要が示され，さらに水路・草地・馬車道・庭園・墓地なども示されている。行政区画も1～4に区分されている。都市内部の施設は1～130番まで詳細に説明されている。シベリア総督府・イルクーツク市参事会などの行政施設や教会，工場，学校，銀行など都市生活に重

Hosei University Repository

要な施設の場所が特定できるようになっている。

No.11とNo.12は書籍商による出版地図である。No.11はトムスクの出版，No.12はイルクーツクの出版である。No.12とNo.8は同じ出版元である。このように，当該期においてシベリアの都市の書籍商が地図を出版するケースがイルクーツクだけでなくいくつか確認できる。モスクワやサンクトペテルブルクの都市図でも，それぞれの都市で19世紀以降多く見られた。

No.14とNo.15は同じ出版地図で「イルクーツク都市図」とあり，1924年の発行である。中央に使われている測量地図は参謀本部作製・発行の地図である。1インチ＝200サージェン（縮尺16,800分の1）である。No.15の地図の周囲には，イルクーツクの企業や店舗名などが示されており，右側にある凡例は簡単なものである。No.14の地図の周囲の広告は切り取られた跡がある。No.7～No.9の都市図がカバーする範囲と比較すると，都市の中心部（市街地部分）しか掲載されておらず，街区の番号や都市内部の施設に関する説明もない。

No.17とNo.18の図は同じ地図で「イルクーツク都市図」とあり，出版元はВласть Трудаで1929年のものである。それぞれの街区が地区別に色分けはされているが，詳細な街区の番号はない。施設の説明も簡単である。No.19とNo.20も同じ地図で，1931年発行の都市図である。出版はイルクーツクのОсоавиахимとある。タイトルの下に1929-30年の資料をもとに編集したことが書かれている。街区には細かく番号が書き込まれているものの施設の説明はない。

No.14・No.15・No.17・No18・No.19・No.20の6枚の地図部分は縮尺も図像もすべて同じであり，参謀本部の作製した16,800分の1の測量図を，イルクーツクの出版元が編集し再利用していると推察できる。

No.22～No.24は，「イルクーツク都市図」とあり，縮尺は15,000分の1である。タイトルと縮尺の下に，「イルクーツク市ソビエトの測量図をもとに編集した」と記されている。出版は東シベリア赤軍ソビエトのВсерообпомとある。1934年の出版地図である。描かれている市街地の特徴を見ると，地区が色分けされ，街区には詳細に番号が付されていることがわかる。また，それまでの地図には存在しなかった都市の郊外北西部に位置するレーニン地区のプランが示されていることに大きな特徴がある。しかも本地図は，前述した参謀本部の地図と比較してみると，縮尺も図像も異なるため，参謀本部の都市図を再利用することなく，新たに測量された図であると推定できる。

(5) その他

オムスクのNo.1とNo.2の都市図は，1884年の参謀本部作製・発行の縮尺21,000分の1の地図である。多色刷りの印刷図が青く縁取られた絹本に貼り付けてある。凡例はないが，都市内部の施設の説明や地名は書き込まれている。市街地部分は橙色で示され，ボカシで地形が表現され，川筋が詳細に示されている。美麗な測量図である。

No.3のタイトルは「オムスク都市概略図」，出版はТранспечать Н.К.П.С.とある縮尺10,500分の1の都市図である。出版年は1925年である。中心部分は参謀本部作製の地図を利用しているものの，周囲には凡例および地図内部の説明が示されており，広告が多数掲載されている。出版元の広告もあり，広告の内容を確認すると，本社はモスクワであるが，オムスク支店がある。地図としては，イルティシ川に面した市街地部分のみ見えるようになっており，周辺は広告や不自然な縁取りで見えなくなっていることに特徴がある。

No.4は，「オムスク都市図」とあり，出版年は不詳，出版はオムスクの書籍商である。周囲に3つ広告があり，左側には凡例と地図内部の施設についての説明がのっている。土地売買に関する記述の広告に，シベリア・極東の都市図には珍しく英語とドイツ語の記載が見られる。地図部分の縮尺は21,300分の1である。

チュメニ（No.1）は，1926年出版の「チュメニ都市概要図」で出版はТранспечать Н.К.П.С.である。オムスクのNo.3の地図と同じ出版元であり，同様のデザインで地図の右端に出版元の広告があ

Hosei University Repository

る。広告を読むと，チュメニにも支店があることがわかる。チュラ川河畔にある市街地は地区別に色分けされ，その周囲に多くの広告が貼りめぐらされている。縮尺は不明である。

クラスノヤルスク（No.1）は，「クラスノヤルスク都市図」（縮尺10,000分の1）であり，1924年の出版である。出版元は明記されていないが，印刷はクラスノヤルスクのВеинбаумと欄外に書かれている。また，都市図の右下に「クラスノヤルスク近郊図」（縮尺40,000分の1）も描かれている。

ノボシビルスクのNo.1は，「測量図のデータに基づいたノボシビルスク都市図」とあり，1925年出版のモノクロ印刷地図である。縮尺は10,000分の1である。オビ川の東側の市街地が描かれており，地区の区分は示されていないが，街区のなかには番号が示されている。地図の下方部分に「ノボシビルスクにおける測量図および水準測量の管理者　測量技師　M.Варанович」と「測量実行の責任者　測量技師　Мезенев」の2人のサインが書かれている。これにより，ノボシビルスクにおいて測量された都市図がベースであることが明らかである。

No.2は，ノボシビルスク市公共事業部作製の「ノボシビルスクの都市と近郊図」（縮尺16,000分の1）である。1928年の出版である。地図の欄外に出版はオムスクのГеонартпромとある。No.3は同じくノボシビルスク市公益事業部編集の「オリジナルな本物の都市図」を用いた「ノボシビルスク都市図」である。タイトルの下に出版はО.Д.Н.とある。縮尺は20,000分の1である。

No.2・No.3は多色刷りであり，オビ川両岸が描かれている。東側のシベリア鉄道のノボシビルスク駅周辺部の市街地の区画を色分けし，街区のなかに詳細に番号が示されている。

2. 各都市図における刊行主体別の特徴

帝政期においては，都市図の刊行主体が市参事会のケースである場合が見られた（ウラジオストクNo.2・No.3・No.4，ブラゴベシチェンスクNo.4・No.5，イルクーツクNo.7・No.8・No.9）。つまり植民都市の支配を行う組織が都市図も刊行していたといえる。ウラジオストクの都市図に見られるように，市参事会は，各植民都市内部の土地の区画設定や各土地の価格等も設定していたと思われ，それらの基礎資料として都市図が刊行され，都市住民に公開されていたと考えられる。いずれにしても植民都市計画の進展のための基礎資料として，行政機関によって作成された都市図であった。

また，シベリア・極東の各都市の書籍商が地図の刊行を行っていたことも確認できた（ウラジオストクNo.1，イルクーツクNo.6・No.11・No.12，オムスクNo.4）。これらは各都市内およびその周辺に居住する住民に向けて，あるいは他の地域に居住する人々にも各都市の詳細な地域情報を提供する役目を果たしたであろう。

しかし，帝政期の市参事会や地図出版者が実際に都市図の測量を行っていたとは考えられない。それらの都市図が刊行される前段階において参謀本部による土地の測量が行われていたからである。シベリアにおける参謀本部の測量地図作製は，1830年代から開始された[15]。たとえば1885年に発行されている地図目録では，西シベリアと東シベリアの地域図が網羅されている[16]。一方，極東は1890年～1900年頃に測量が行われた[17]。19世紀後半から20世紀初期にかけては，この測量された都市図をもとに，それらを再編集・再利用して，各都市においてローカルな地図作製およびその出版が行われていたと推定した。

1920年代になると，ローカルに作製・出版された都市図には，都市の中心部のみを地図の中央に掲載し，その周囲に広告をめぐらしたタイプのものが存在した。このタイプの地図は，ウラジオストクNo.7，ハバロフスクNo.4，ブラゴベシチェンスクNo.6，イルクーツクNo.14・No.15，オムスクNo.3，チュメニNo.1などで見られ，発行年次の明記されていないものもあるが，描かれている内容などからすべて1920年代の出版地図であると想定できる。このタイプの地図の刊行主体は当

Hosei University Repository

該地域の公営企業であると思われる。内戦が終了し，ソ連時代になったことで，新たに都市に存在する工場や交通機関，食料品店，衣料品店などを住民に宣伝するために描かれていると思われる。

しかし，オムスクの都市図の事例で，参謀本部が出版した都市図の形式・内容と比較してみると，参謀本部が作製・出版した都市図（オムスクNo.1・No.2）では，市街地の北東部分に軍関連施設が存在したことが読み取れるが，同じ地図を用いながらも1925年の都市図（オムスクNo.3）では広告によって隠されている。極東の3都市においても同様に，帝政期の地図に示されている軍管轄地域は，地図の範囲の外である。もちろん広告によって隠されている市街地の周辺部分には，1920年代においても工場や官舎など軍関連施設の立地が予想できる。しかし，その地域は帝政期の地図のように印刷地図の範囲には入っていない。

1930年代になると，イルクーツクNo.22・No.23・No24の事例では，イルクーツクのソビエトによる測量図が作製され，編集されていたことが判明した。またノボシビルスクNo.1では1920年代に測量技師による測量図および水準測量が実施されていたことも判明した。

このように，帝政期に作製された測量図の編集・利用ではなく，新たな都市図の作製および出版が行われたことは，1920年～1930年代のソビエト時代のシベリア・極東の各都市における新しい時代の要請によるものであったと思われる。

V．おわりに

本稿では，極東の主要3都市（ウラジオストク，ハバロフスク，ブラゴベシチェンスク）および東シベリアの中心都市であるイルクーツク，西シベリアの主要都市であるオムスク，ノボシビルスク，チュメニの20世紀前半の出版都市図の内容や刊行主体を比較検討しながら，シベリア・極東における植民都市を対象とした都市図の特徴について論じてきた。

18世紀～19世紀のシベリアの都市建設を論じるうえで重要な側面は，①要塞，②造船所と港湾，③工場，④宮殿と居住区，⑤行政の中心が都市にどのように建設され機能していたのかという点であることが先行研究では指摘されている[18]。しかし，19世紀～20世紀初頭において都市の発展を論じるうえでは，さらに⑥都市内部の土地割（街区と街路）とその変化，⑦都市部の拡大と周辺地域の土地利用等が重要である。それに応じた都市図が各地で作製・刊行されてきたといえる。

20世紀初期には，ほぼすべてのシベリア・極東の主要都市において参謀本部が作製した大縮尺の地図はすでに整備されていた。つまり，それをベースマップとして各都市でそれぞれの用途に応じた都市図が編集され，出版されたと思われる。また1920年代～30年代には各都市において測量した出版地図も見られた。

しかし，1920年代に刊行された都市図のなかには，周囲に広告をめぐらし，都市の中心部のみ掲載している地図が見られた。これは，各都市にある企業や店舗の広告の掲載という積極的な意味ももちろんあるものの，それだけではなく，都市およびその周辺地域を「地図上には表現せずに隠し，公にはできない重要な施設（軍事施設など）を描かない」という軍事的な側面も想定できる。

このように，ロシアで作製された大縮尺の地域図を考えるうえでは，常に描かれていない情報，隠されている情報を考慮する必要がある。地図史研究でいう「沈黙」の論理を考えていくことが重要であろう。

今後は，都市図の地図史研究を深化させることと都市図を通してシベリア・極東の都市行政の研究を行うことの2つの方向性が考えられる。前者においては，参謀本部の都市作製史のなかでの大縮尺の都市図の意義，帝政末期およびソ連初期における都市図の軍事的な意義（極秘地図の存在など）を考察すること，後者においては，市参事会と都市図出版の関係を帝政期の都市支配の文脈で再検討する，あるいはソ連初期の都市運営と都市図の関係を明らかにすることなどが挙げられる。いずれにしても，個別の都市史のコンテクストか

Hosei University Repository

らみた都市図の内容および測量・編集・出版について，詳細な検討が必要であり，それらは今後の課題としたい。

表　ロシアの資料保存機関におけるシベリア・ロシア極東の近代都市図所蔵状況

ウラジオストク

No	タイトル	作製者	作製年	刊行者	刊行年	法量	所蔵機関	目録番号	備考
1	План города Владивостока издание книгопролаца С.А. Зензинова Владивосток 1898г			書籍商 Ｃ．Ａ．Зензинов	1898		ロシア国立極東歴史文書館（ウラジオストク）	ф28.01.No.268	1:5,400
2	План города Владивостока 1909г			ウラジオストク市参事会	1909		ロシア国立極東歴史文書館（ウラジオストク）	ф28.Оп.1Д. No.352	1:21,000
3	План города Владивостока 1909г			ウラジオストク市参事会	1909		ロシア国立極東歴史文書館（ウラジオストク）	ф28.Оп.1Д. No.183	1:21,000
4	План города Владивостока 1917г. В.Г.О.У.			ウラジオストク市参事会	1917		ロシア国立極東歴史文書館（ウラジオストク）	ф28.Оп.1Д. No.898	1:8,400
5	План Владивостока с нанесением железнодорожных и портовых сооружений исполненных в 1915 году			東清鉄道	1915		ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко 101/ Ⅰ - 12	1:12,600
6	План существуюшего и проектированного расположения города Владивостока			ウラジオストク市公益事業部	1929	64.0 × 89.2	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко58/ Ⅲ -44	1:15,000
7	План Владивостока города			Трансреклама		72.0 × 94.7	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко58/ Ⅲ -45	1920 年代か？
8	План существуюшего и проектированного расположения города Владивостока					57.6 × 70.0	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко58/ Ⅳ -58	5,6 の都市図と類似
9	Подробная карта Владивостока и его укреплений с подробнымь описанием					107.5 × 73.0	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко15 / Ⅷ -49	1904 頃か？
10	План расположения города Владивостока			ウラジオストク市公益事業部	1936	59.5 × 91.5	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко57/ Ⅳ -57	1:15,000 6 の地図と同じ
11	План земельного умастка в г. Владивостоке/в районе театра Тифонтая/, предазначенного для постройки жильлх зданий.					36 × 48	ロシア国立軍事史文書館（РГВИА）	1146	1:1,008　1900 年代初期
12	План Оуйфунской площади в г. Владивостоке.Сьемка Павлова и лукьяпова.		1912			46 × 32	ロシア国立軍事史文書館（РГВИА）	1147	1:840

Hosei University Repository

No	タイトル	作製者	作製年	刊行者	刊行年	法量	所蔵機関	目録番号	備考
13	Планъ Владивостока		1908		1916		ロシア国立図書館（サンクトペテルブルク）（РНБ）	ОК3-План/2-39	
14	План проэктированнаго расположения гор.Никольска-Уссурийслаго,Приморской области,утвержденный 9 февраля1900года.-Владивосток.Литография общества"Сущинский и К"				1900	55 × 60	ロシア国立図書館（サンクトペテルブルク）（РНБ）	ОК3-План2/112	

ハバロフスク

No	タイトル	作製者	作製年	刊行者	刊行年	法量	所蔵機関	目録番号	備考
1	Планъ г.ХАБАРОВСКА 1911г.				1911		ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко 15/ Ⅶ -49	1:21,000
2	План существюшего и проектированного расположения горада Хабаровска				1924	92.5 × 69.6	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко58/ Ⅶ -59	1:8,400
3	План горада Хабаровска					23.7 × 23.4	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко 60/ Ⅰ -144	
4	План г.Хабаровска					71.6 × 93.5	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко 58/ Ⅶ -41	1920 年代か？
5	Планъ г.Хабаровска/ Разр.Хабаров.Город.		1911	Упр.-Литография" Дальний Восток", Владивосток			ロシア国立図書館（サンクトペテルブルク）（РНБ）	ОК3-План/2-16	
6	План.с.Малмьлжского,Приморской обл.,с окрестностями. Хабаровск.	капитана Васильева и штабс-капитана Хлебникова		ВТОГШ	1905	39 × 50	ロシア国立軍事史文書館（РГВИА）	1140	1:21,000
7	Планъ города Хабаровска						ロシア国立図書館（サンクトペテルブルク）（РНБ）	К4-План/1-179	3 と同じ地図

ブラゴベシチェンスク

No	タイトル	作製者	作製年	刊行者	刊行年	法量	所蔵機関	目録番号	備考
1	Планъ г.Благовещенска Амурской области.			А.Ильина（サンクトペテルブルク）	1910	71 × 102	ロシア国立図書館（サンクトペテルブルク）（РНБ）	ОК3-План4/11	
2	План горада. Благовещенска./ Падписал/обл.архит. С.Кр/овилин/. 1869г. лек.30дня Б.м.1869				1869		ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко Ⅲ / у -25	1:16,800
3	План горада. Благовещенска				1890 年代か？	28.2 × 53.0	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко15/ Ⅲ -36	1:16,800
4	План горада. Благовещенска Амурокой области.			ブラゴベシチェンスク市参事会	1910	71.3 × 102.9	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко15/у-18	1:8,400
5	План горада. Благовещенска Амурокой области.			ブラゴベシチェンスク市参事会	1915	70.3 × 103.1	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко15/у-19	1:8,400

Hosei University Repository

No	タイトル	作製者	作製年	刊行者	刊行年	法量	所蔵機関	目録番号	備考
6	Благовещенск.горада-План.План горада. Благовещенска Амурокой гуернии 1925г			О.ДВ. ОюДрузей Детей	1925	70.3 × 94.8	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко58/ Ⅱ -15, 16	1:10,000
7	План горада. Благовещенска				1932	105.7 × 76.0	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко58/ Ⅲ -5	1:10,000

イルクーツク

No	タイトル	作製者	作製年	刊行者	刊行年	法量	所蔵機関	目録番号	備考
1	Иркутск,г.-План.				1730	61.7 × 49.5	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко104/1-25	1:7,460
2	План губернского города Иркутска				1829		イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6669(1)	1:42,000
3	Иркутск,г.-План. губернского города Иркутска				1869		ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко Ⅲ /у-27	1:16,800
4	План губернского горада Иркутска				1872		イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	番号なし	
5	Иркутск Карта Южной пограничной полосы Азиатской России				1888		イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6665(1)	1:1,680,000 ケバ法の地形図
6	План города Иркутска			書籍商 И.И.Макушин（イルクーツク）	1900		イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6404(1)	1:12,600
7	План города Иркутска	Н. Алюшкевич		イルクーツク市参事会石版印刷 К.И. Витковской（イルクーツク）	1903		イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	7075р	1:12,600 多色刷り
8	Плань города Иркутска	Н. Алюшкевич.		イルクーツク市参事会	1903		ロシア国立図書館（サンクトペテルブルク）（РНБ）	ОК3-План/4-373	白黒
9	Иркутск,г.-План	н. Алюшкевич		イルクーツク市参事会石版印刷 К.И. Витковской（イルクーツク）	1903	70.0 × 93.5	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко22/уп-20	1:10,500 多色刷り
10	Окрестности города Иркутска				1905		イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6639(3)	1:42,000
11	План горада Иркутска			書籍商 В.М. Погохин（トムスク）	1911		イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6670(9)	1:16,800
12	План горада Иркутска			書籍商 Т.Д. Макшин（イルクーツク）	1919		イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6404(12)	1:12,600
13	Иркутск,г.-План.План горада Иркутска и табелькалендарь на 1923г				1923		ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко73/у Ⅰ - Ⅰ 05	カレンダー付き

Hosei University Repository

No	タイトル	作製者	作製年	刊行者	刊行年	法量	所蔵機関	目録番号	備考
14	План города Иркутска			ВТОГШ	1924		イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6404(13)	1:16,800
15	План города Иркутска			ВТОГШ	1924		イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6404(14)	1:16,800
16	План города Иркутска				1925		イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6404(9)	1:12,600
17	План города Иркутска			Власть Труда	1929		イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6404(15)	1:16,800
18	Иркутск,г.-План.				1929	54.0 × 57.0	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко57/ Ⅰ у-66	1:16,800
19	План города Иркутска		1929-30		1931		イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6404(16)	1:16,800
20	Иркутск,г.-План.План города Иркутска.		1929-30		1931	53.8 × 57.2	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко57/ Ⅰ у-64.65	1:16,800 19 と同じ地図
21	План города Иркутска			Весь Иркутск 石版印刷 П. Линкекеч	1932		イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6404(7)	1:12,600
22	План города Иркутска			Вост.Сиб. Крайсовет Всерообпом	1934		イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6404(17)	1:15,000
23	План города Иркутска			Вост.Сиб. Крайсовет Всерообпом	1934		イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6404(18)	1:15,000 22 と同じ地図
24	Иркутск,г.-План.План города Иркутска.			Вост.Сиб. Крайсовет Всерообпом	1934	63.0 × 55.5	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко57/ Ⅰ у-68	1:15,000 22 と同じ地図
25	Окрестности города Иркутска						イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6402(2)	1:42,000
26	Фрагмент карты Окрестностей Иркутска						イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6404(3)	1:85,000 地図の一部
27	План военного кладбища в г.Иркутске						イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6404(4)	地図の一部
28	Фрагмент карты Окрестностей Иркутска						イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6404(5)	地図の一部
29	Окрестности города Иркутска						イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6404(6)	1:42,000
30	План 3-ей полицейской части г.Иркутска						イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6404(10)	1:3,360
31	План дорада Иркутска						イルクーツク大学学術図書館（НБИГУ）	6404(11)	1:25,200

Hosei University Repository

オムスク

No	タイトル	作製者	作製年	刊行者	刊行年	法量	所蔵機関	目録番号	備考
1	План г. Омска с окрестностями			ВТОГШ	1884	62.5 × 47.0	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко21/У1-101	1:21,000
2	План г. Омска с окрестностями			ВТОГШ	1884	44.0 × 40.0	ロシア国立軍事史文書館（РГВИА）	1134	1:21,000　1と同じ地図
3	Схематический Омск,г.-Плап.	ВТО		Транспечат Н.К.П.С.	1925	106.5 × 70.8	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко57/уп-20	1:10,500
4	Плап горада Омска			Н.А. Иванов		58.8 × 44.5	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко102/Ⅸ-37	1:21,300

チュメニ

No	タイトル	作製者	作製年	刊行者	刊行年	法量	所蔵機関	目録番号	備考
1	Тюмень,г.-План			ТранспечатьН. К.П.С.	1926	71.7 × 108.0	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко58/п-30.31	

クラスノヤルスク

No	タイトル	作製者	作製年	刊行者	刊行年	法量	所蔵機関	目録番号	備考
1	Красноярск,г.-План				1924	65.0 × 83.5	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко57/Ⅰу-78	1:10,000

ノボシビルスク

No	タイトル	作製者	作製年	刊行者	刊行年	法量	所蔵機関	目録番号	備考
1	Новосибирск,г.-План.				1925	83.7 × 71.5	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко57/у-15-18	1:10,000
2	Новосибирск,г.-План.			ノボシビルスク市公共事業部	1928	47.5 × 61.5	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко57/Ⅰу-60.61	1:16,000
3	Новоситбирск,г.-План.			ОДН（ノボシビルスク）	1928	87.5 × 63.0	ロシア国立図書館（モスクワ）（РГБ）	Ко57/уп-28	1:20,000

（付記）

本稿は 2010 年日本地理学会秋季学術大会（名古屋大学）での発表をまとめたものである。なお都市図の画像は制限字数の関係ですべて割愛した。科研費報告書に改めて掲載予定である。

本稿では平成 19 ～ 21 年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（B）「東アジア世界の近代都市図集成とその比較地図史的研究」（研究代表者：長谷川孝治（神戸大学）），平成 20 ～ 22 年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（C）「17 ～ 19 世紀におけるロシア帝国のシベリア・極東の地域像」（研究代表者：米家志乃布），平成 21 年度福武学術文化振興財団研究助成（地理学）「17 ～ 20 世紀のシベリア・極東におけるロシア植民都市の地図作製」（研究代表者：米家志乃布）の一部を使用した。

1 Постников А.В, Развитие крупномасштабной картографии в России, Москва, 1989.

2 Глушков В.В, История военной картографии в России ⅩⅧ - начало ⅩⅩв, Москва, 2007.

3 Гуляницкого Н.Ф, Петербург и другие новые россйские города ⅩⅧ–первой половины ⅩⅨ веков, Серия «Русское градостроительное искусстово», Москва, 1995.

4 Тверской А.М, Русское градостроистельство до конца ⅩⅦ века, Москва, 1953. Косенсова Ю.Л (ред), Советское градостроительство 1920-1930-х годов :Новые исследавания и материалы Москва, 2009.

5 たとえば，Крадин Н.П, Старый Хабаровск: Портрет города в дереве и камне, 1858-2008, Хабаровск, 2008. Ривкин Б.И (ред), Старый Владивосток, Владивосток, 1992. Холкина Т. А, Чаюн Л.А, Архитектурное наследие Благовещенска,

Hosei University Repository

Благовещенск, 2006. Шахеров В.П, Города восточной Сибири в ⅩⅧ - первой половине ⅩⅨ вв, Иркутск, 2001. など各都市において多数の研究文献やアトラス類が出版されている。

6 佐藤洋一『帝政期のウラジオストク中心市街地における都市空間の形成に関する研究』早稲田大学建築史研究室博士論文, 2000 年.

7 前掲 6）270 ～ 277 頁。ウラジオストクの市街地図が日本側作製・ロシア側作製の両方で 31 点挙げられている。帝政期のみである。

8 『近代ロシア都市地図集成　1845-1941』, 遊子館, 2005 年.

9 前掲 8）『近代ロシア都市地図集成　1845-1941』には，イルクーツク（1912 年），トムスク（1912 年），ウラジオストク（1892 年，1912 年）の都市図が掲載されている。しかしいずれも都市内部の建物や地名などの詳細な説明はない。

10 イルクーツク国立大学学術図書館（НБ ИГУ）所蔵の地図については，以下の CD-ROM が参考になる。История Иркутской губернии в картах и планах：XVIII век-1917 год, 2008. このなかには，都市図は 1 枚のみ掲載されている。

11 РГИА ДВ, Указатель документов по истории города Владивостока, 2000,

12 1 サージェンはおよそ 2.134 メートル。

13 前掲 6）『帝政期のウラジオストク中心市街地における都市空間の形成に関する研究』275 頁掲載（図資 1-11）参照。

14 「イルクーツク都市図」（1855 年版，1874 年版）縮尺 8,400 分の 1,「測量器具によるイルクーツク都市と近郊図」（1874 年版）縮尺 8400 分の 1,「イルクーツク都市と近郊図」（1883 年版）縮尺 21,000 分の 1 などの都市図が確認できる。Каталогъ склада военно-топографического отдела гравнаго штаба. Впыускъ Ⅰ Азия. Съемки и оригиналы карть :Сибири, оренбургскаго края, туркестана и закаспийскаго края., С-Петербургъ, 1885. С.5-6.

15 前掲 2）Глушков В.В, История военной картографии в России ⅩⅧ - начало ⅩⅩ в С.207-208.

16 前掲 14）Каталогъ склада военно-топографического отдела гравнаго штаба. Впыускъ Ⅰ Азия. Съемки и оригиналы карть：Сибири, оренбургскаго края, туркестана и закаспийскаго края.,С-Петербургъ, 1885.С.1-30.

17 前掲 2）Глушков В.В, История военной картографии в России ⅩⅧ - начало ⅩⅩ в.С.207.

18 前掲 3）Гуляницкого Н.Ф, Петербург и другие новые россйские города ⅩⅧ–первой половины ⅩⅨ веков. С.Ⅳ.

Hosei University Repository

Mapping colonial cities in Siberia and the Russian Far East in the first half of the twentieth century

KOMEIE Shinobu

In the history of Russian cartographical research large-scale maps of cities has long been a topic of special interest for some historians and historical geographers. This paper examines the characteristics of and trends in the mapmaking creation of Russian colonial city in Siberia and the Russian Far East in the first half of the twentieth century.

The author investigated many city maps collected by libraries and archives in Russia in order to understand how large-scale maps were made and used by city residents in the context of construction and development of colonial cities in Siberia and the Russian Far East. The list of these maps shows many large scale city maps were published by the General Staff Office of the Russian army, city councils, and map publishers in some colonial cities under the Russian Empire and the Soviet Union from the nineteenth century to the first half of the twentieth century. In the mid-nineteenth century the Russian army had already surveyed residential areas in colonial cities in Siberia, and started to survey lands in new colonial cites in the Far East during 1890-1900.

City councils and map publishers could make accurate maps based on these surveyed maps. After the Civil War in Siberia and the Far East, the map design was modified in some colonial cities. There were many public announcements in the surrounding central areas of the cities on the published maps. As a result, we could not look at some military facilities around the city in the Soviet period. This finding advances our understanding of 'the silences on maps' derived from J.B.Harley's theory in historical cartography.

Keywords: Colonial cities, Mapping, Siberia, Russian Far East, first half of the twentieth century